令和８年度第１回さいたま市図書館協議会会議録

開催日時　　令和８年７月３１日（金）　１０時００分～１２時００分

開催場所　　さいたま市立中央図書館　イベントルーム

出 席 者　　（委員　※敬称略）
蒲池庸子、廣澤美恵子、富田敏弘、平田潤子、石川敬史、宮田洋輔、川又理奈、
櫻井未央、関根公一、柏宏之、茂木千春、木和田美佐
（事務局）
阿部中央図書館長、中島中央図書館副館長、小林管理課長、
大橋資料サービス課長、野村北浦和図書館長、杉田東浦和図書館長、
馬渕大宮図書館長、井澤大宮西部図書館長、阿久津春野図書館長、
溝上与野図書館長、石井岩槻図書館長、村山桜図書館長、長谷川北図書館長、
玉木武蔵浦和図書館長

欠 席 者　　（委員　※敬称略）
齋藤潤

公開・非公開の別　　公開

傍聴人の数　　１人

次第

令和８年度第１回さいたま市図書館協議会

日時：令和８年７月３１日（金）１０時００分～
会場：さいたま市立中央図書館　イベントルーム

次　　第

１　開　会

２　諮　問

３　議題及び報告事項
（１）令和７年度事業報告・令和８年度事業計画について
（２）さいたま市図書館ビジョン（第３期）策定について

４　その他

５　閉　会

＜配布資料＞
（１）図書館協議会委員名簿　・・・（資料№.１）
（２）令和８年度さいたま市図書館名簿　・・・（資料№.２）
（３）さいたま市図書館協議会　座席表　・・・（資料№.３）
（４）令和８年度さいたま市図書館の主な事業・取組について　・・・（資料№.４）
（５）さいたま市図書館ビジョン（第３期）策定に関する資料
　過去協議の振り返り　・・・（資料№.５－１）
　第１２期図書館協議会提言の概要　・・・（資料№.５－２）
　ユネスコ公共図書館宣言２０２２の概要　・・・（資料№.５－３）
　図書館ビジョン・基本計画等の概要比較　・・・（資料№.５－４）
（６）令和８年度さいたま市図書館要覧

１　開会

事務局から資料の確認を行った後、進行を石川委員長に委ねた。

本会議について公開とすることを確認後、傍聴希望者を確認した。傍聴人１名。

２　諮問

中央図書館長が諮問書を読み上げ、石川委員長に手交した。

管理課長から、諮問理由の説明を行った。

【質問・意見等】

石川委員長　　前回協議会では、ビジョン（第３期）に向けた課題を協議した。今後、令和９年度第１回協議会までにさいたま市図書館のありたい姿やビジョンを作っていく流れである。

図書館協議会は図書館法 14 条に規定されていて、館長の諮問に応じ、図書館の行う図書館奉仕について、館長に対して意見を述べる。また、図書館法 15 条では教育委員会の任命となっているので、教育という広い施策の中でも、図書館のあり方というものがこれから求められていく。お手元の諮問理由もご参照いただきたい。

協議会では、ビジョン（第３期）だけを議論するわけでもなく、事業報告や計画も皆様のご意見を伺っていく。

３　議題及び報告事項

（１）　令和７年度事業報告・令和８年度事業計画について

資料サービス課長から、当日配布資料（４）（６）を用いて説明を行った。

【質問・意見等】

宮田委員　　行事について、時代に合わせてこういうところを変えた、といったものはあったか。

資料サービス課長　　ビブリオバトルを継続して行っているが、好評のため、昨年度は会場を広い場所に変えた。また、近隣の書店４店とコラボし、紹介した本を飾っていただくとともに、書店にシールを置いていただき、シールラリーをすると景品がもらえるようにした。今年度もやっていきたい。

宮田委員　　これからもチャレンジングな行事を入れていただけると面白いかと期待している。

関根委員　　69～70 ページの政令指定都市の統計を拝見して、委員として誇らしい内容と感じている。とりわけ、人口が９番目だが、各指標いずれも上位に入っており、活動が成果につながっている。ビジョン（第３期）の策定も、実績を踏まえてさらに良い方向に進めると思う。

資料サービス課長　　人口１人当たり貸出数が減少傾向にもかかわらず、さいたま市の市民一人当たりの貸出数は政令指定都市１位を保っており、さいたま市民が読書に関心のあることの表れと思う。継続していけるような事業や計画を考えてまいりた

い。

石川委員長　　図書館は市民のものである。これだけ利用があるということは、図書館スタッフの努力と同時に、市民、利用者の皆さんがいるからである。お手元の子ども読書活動推進計画についていえば、児童サービス、ヤングアダルト、乳幼児など重要なサービスと思うので、力を注いでいただきたい。

政令指定都市統計は利用実績を誇れるものであることを考えると、県内図書館をけん引していくこともさいたま市図書館のあり方といえる。さいたま市の図書館から県内図書館全域にサービスが広がっていく、けん引していく視点も求められる。

前回、ビジョン（第３期）に向けた課題の議論で、施設の老朽化が挙がった。今回の資料からは見えなかったが、与野図書館の複合施設化、公共施設の再編について、進捗を委員に情報共有していただきたい。

資料サービス課長　　子ども読書活動推進計画（５次）を策定し、さいたま市としても児童の読書環境は重要と考えている。子どもの頃に読書の習慣がつけば、部活や勉強で読書から離れても、時間ができたときや、何かのきっかけがあったときに、読書という手段を思い出してくれるのではないかと思う。これに基づいて、読書環境の改善を進めてまいりたい。

埼玉県内図書館のけん引については、他市町村の図書館に参考にして貰えるようなサービスも行っていけたらと考える。

事務局　　与野図書館を含む中央区役所公共施設再編は、要求水準書に係る事業者との対話を行った結果が公表されている。この秋に事業者から提案があり、その後事業者が決定される。どのような図書館になるかは、現時点ではまだ分からない。

石川委員長　　新しい図書館ができていく前に、市民の要望や意見と一緒に作っていけるような過程、プロセスが求められる。

廣澤委員　　「子どもの豊かな心と生きる力を育む」とあるが、放課後児童クラブとの連携はどのような形で行っているか？各小学校にあるので、年１回順番に行くなどか？

資料サービス課長　　図書館によっては年１回の館もあるし、図書館の立地によっては、子供が図書館に集まってもらえない館もあるので、待つだけではなく、自ら放課後児童クラブ等へ出かけ、お話し会を積極的に進めている図書館もある。

廣澤委員　　知るきっかけができたら、それが本に接することになる。自団体でも、貸出図書を実施したが、小学校に本が並んでいても手に取らず表紙を見回るだけで、身近に感じていない、本が嫌いな子供やネットの画像ばかり見ている子どもがいる。本当に生の声でお話できて、その楽しさを感じてもらえたらと日頃思っている。

石川委員長　　図書館で待っているよりも、利用できる方がいるところに図書館が出かけて行ったり、本を提供したりする活動も必要である。

３　議題及び報告事項

（２）　さいたま市図書館ビジョン（第３期）策定について

事務局から、当日配布資料（５）を用いて説明を行った。

今回の議論の参考のため、宮田委員から、国外のサービスの好事例について紹介を行った。発表の骨子としては、在留外国人への支援、AI を使うこなす力の育成、ライブラリーオブシングス（物の図書館）、情報にアクセスできる図書館の４点があり、図書館への期待が示された。

石川委員長　　従来の図書館より前向きな展望、これからのあり方の大きな示唆をいただいた。何年後すぐ真似をするということはなかなかできないが、この裏に隠されている考え方や理念は、今後のさいたま市の図書館のビジョンに大いに生かせる内容であった。

事務局　　配布したピンク・黄色・緑のカード 26 枚は、第 12 期図書館協議会の提言の６つの要素、前回の協議会での課題出しで出てきた９つの課題、それからユネスコ公共図書館宣言 2022 に書かれている 11 の要素である。

そのカードを何枚かグループにすると、同じカードに対して、いろいろな切り口でタイトルを付けることができる。

例えば、子どもに関するカードを３枚集めると、「図書館の抱える課題を解決する」という切り口で、「子どもの読書率の向上」といったタイトルを付けることができる。この３枚のカードに、「デジタルリテラシーの発達促進」とか、「科学的知識の地域社会への提供」といったカードを加えると、「若い人たちの学びを支える」というようなタイトルを付けることができる。この時には、「学びを支える」になっているから、これが「図書館の働き」という切り口でタイトルが付けられていることになる。

このように、同じカードでも視点を変えるといろいろなタイトルを付けることができる。これがビジョン（第３期）の基本的方向性のタイトルを付けるときのヒントになるので、今回グループワークをお願いしたい。

石川委員長　　前回は課題を洗い出しご意見を伺ったが、今回は図書館のあり方を議論する中で、単に意見交換だけでなく、どういう柱が求められるかカード化して、図書館で一番求められるものはどのあたりか、グループで議論していただくように配布した。

配布したピンク・黄色・緑のカードは、事務局から配ったＡ３のワンペーパーにも印刷されている。「さいたま市図書館に求められるもの」の優先度の高いものを選ぶ議論をいただき、各班からの意見を共有したい。

その後、委員が３グループに分かれて、「基本的項目の方向性の整理」をテーマとしたグループワークを行った。

【内容発表及び質問・意見等】

柏委員　　３つの柱という話をした。たくさんの意見が噴出したが、１つ目は子供の学び、これから先も一番重要な柱となるのではないか。個人的な意見・肌感覚と

しては、保護者たちが以前より学びへの意識は高くなっており、子どもたちの学びに対する重要性がまた上がってきている。これからチャンスである。

施設面ではバリアフリーとしたが、単に施設の階段が緩いだけではなく、海外の人でも利用しやすいようにすべきではないかという意見があった。

一番話が盛り上がったのがコラボレーション。具体的な話には至らなかったが、財政難に当たって、企業・団体を呼び込むことも重要なのではないか。図書館としても何かリンクしていくことも考えられるのではないか。

平田副委員長　　３つの柱になった。

１つ目は、子どもの読書習慣の特性とか、図書館の子どもと若者と図書館の関係づくりということで、子どもや若者を対象としたサービス向上ということで、「未来をはぐくむ」とタイトルを付けた。

２つ目は、地域住民の遺産の保存と活用、文化的資産の保存と活用、能動的な図書館拡張の推進と、いろいろ考え、「地域をはぐくむ」というタイトルを付けた。

３つ目は、財政難や老朽化を考えた際に、個性ある図書館、異文化交流の促進、デジタルリテラシーの発達促進などのサービスの充実を一つの塊と考えて、「人をはぐくむ」というタイトルを付けた。

これらの課題を解決するにあたり、大きな問題となる課題として、人材不足、職員の専門性の減少ということが挙げられた。

櫻井委員　　似た内容を集めるということで、子どもに関するもの、図書館機能に関するもの、少し重複するが地域に関するものに分けた。

話をしていく中で特に盛り上がったのが、ビブリオバトルについてだった。以前は図書館から声をかけていたが、今は募集すると参加者が集まるようになったと聞き、盛り上がっていると感じた。地域の人が気軽に見られる場所で開催すれば、さらに盛り上がり、楽しさも増えるのではないか。

海外の図書館の例を聞いた際には、異文化交流についての話があった。街を歩いていても外国人の方とすれ違うことが増えているが、話すきっかけがない。図書館にそうした交流の場があると素敵かもしれない。

また、子どもに関することでは、これからは AI などについても子どもたちが学んでいく必要があるため、そうしたことを学べる図書館があるとよいのではないか、という話をした。

石川委員長　　時間の制約もあったが、委員の経験に基づく活発な議論をいただけた。次回は 11 月頃と伺っており、その頃には基本的方向性を整理したり、基本理念を検討したりするフェイズに移ろうと思う。委員の皆様から出た言葉やグループ分けを参考にし、皆様のご意見を基にしながら、事務局にいくつか基本的な方向性の案を提出していただこうと思っている。

使わなかったカードも大事な要素なので、それも含めた案を出していただいて、方向性を収束させていき、意見をいただきたい。こういう方向性でビジョ

ンを作るということに委員の皆さんからご意見を伺う時間になるかと思う。
模造紙にまとめた協議内容は、フィードバックしたい。

4　その他

事務局から、さいたま市図書館へのネーミングライツの導入についての進捗報告を行った。

【質問・意見等】なし

5　閉会

事務局　　先ほど委員長からお話があった次回の協議会については、11 月 16 日（月）を予定している。正式に決定し次第開催通知をお出しする。